

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470100658
法人名	社会福祉法人 自立共生会
事業所名	グループホーム ひかりの里
所在地 (電話番号)	桑名市新西方3丁目187番地 (電話) 0594-23-9292
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 28 日(水)

【情報提供票より】 (H19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 15人, 非常勤 9人, 常勤換算	19.1人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨ALC造り
	3階建ての 1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~60,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有(50,000 円) 退去時修繕後返却			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	26名	男性	2名	女性	24名
要介護1	3名	要介護2	11名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	71 歳	最高	102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ウエルネス医療クリニック 山本総合病院 平田循環器病院 スマイル歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3階建ての3ユニットの事業所である。同じ施設内に放課後児童健全育成事業や幼児を預かる事業もしているため、昼食時は利用者と一緒に幼児も持参の弁当を食べるので非常ににぎやかで「ほほえましい風景」が見られるし、午後には学校の終わった児童が遊びにくるので、残存能力維持の必要な高齢者には、最適の環境である。また施設の一部を地域交流の場として自治会の集会所として開放しており、地域の人々の出入りも多く、地域密着型を率先垂範している事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査の改善課題であった運営理念の明示はすべて改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員とも評価の意義は理解されており、自己評価も職員全員で取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年5月から継続して行われており定着しつつある。事業所からの報告に対し活発な意見交換が行われているが、地域関連事項が多く、地域を代表する自治会もメンバーに加えられることをお勧めする。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームだより「里だより」が毎月発行されており、利用者の日常生活の様子だけでなく、職員手書きの通信欄もあり、家族の不安対応に役立っている。運営推進会議に利用者家族代表の出席もあるが意見は少なく、本人・家族意見の吸い上げには努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会加入はもちろん、自治会の集会所として施設を開放しているので、自治会役員の出入りは頻繁である。また放課後児童健全育成事業も行っており、子どもはもちろんその親の出入りもあり、地域との交流・連携はできてきている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から地域密着を実践しており、従来からの「お年寄りの底力を生かそう」の理念を、地域密着になった今年度に今までのものをより分かりやすく改定した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に理念は体の中に浸透しており、日々の仕事も自然体で理念に沿った行動をとっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加はもちろん、施設を自治会の集会所として開放しているし、放課後児童健全育成事業として児童クラブ「パンの木」を併設しており、地域の子どもだけでなく、その親の出入りもあり、地域の一員として認められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価に取り組んでいるし、昨年の要改善項目は、全て改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月から2ヶ月に1回(今年度から3ヶ月に1回)継続して開催しており、報告、意見交換も活発でサービス向上につなげている。	○	出席メンバーは利用者、家族、行政、民生委員であるが、地域との強力な関係作りには自治会メンバーの参加をお勧めする。またそのときのテーマで人選するのも一つの方法である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、サービス実施内容報告や、利用者の空状況等の情報を伝えたりと連携に努めている。また市職員を講師に「介護及び健康教室」を開催された。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所内の生活情報や行事結果を掲載した「里だより」や、会計収支報告を毎月家族に送っている。この「里だより」には、各家族宛に職員が手書きする連絡欄もあり好評である。また年度毎に職員全員の顔写真入自己紹介を送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱もあり運営推進会議に利用者代表の出席もあるが意見は少ない。	○	話しやすい環境作りや、積極的に家族の意見を引き出す努力をしているが、家族には「お世話になっている」関係で、面と向かっては、本音はなかなか出難いものである。そのような場合はアンケート方式も一考と考える。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職はあるものと考え、申し送り時は利用者全員についての申し送りをすることにより、職員は全利用者についての知識・情報を持つようにしている。また利用者のダメージを少なくするために、馴染みになっている他の職員が訪問するようにもしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修や勉強会が厳格に決められているし、グループホーム連絡協議会や市・社協主催の外部研修情報も入っており、職員には参加の機会が与えられている。	○	職員個人のスキルアップの為にも、段階に応じた研修計画(個人別育成計画)と実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し勉強会等に出席しているし、地域の同業者からの職員実習を受け入れたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談や見学だけでなく、体験入所やショートステイと雰囲気徐徐に馴染めるようにして利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	併設の学童保育の児童と一緒に活動したり、かまどでご飯炊きしたり、畑仕事したり、それぞれの知恵や経験に応じて役割を持って活動する場面作りをしたりしている。職員も一緒にすることにより教えてもらったり、支えあったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ利用者と一対一で対話し、本人の希望や思いを把握している。本人との会話が困難なときは、家族と話し合いで希望や意向に近づけるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向(電話確認を含め)をもとに、職員全員で毎月カンファレンス会議を行い課題の把握をしている。また主治医や管理栄養士の意見も入れ介護計画書を作成し、家族に郵送している。	○	作成された介護計画書を郵送し、意見を求めているが、できるだけ本人・家族へ説明、話し合いの機会を多くもたれるようお勧めする。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアミーティングで全利用者についての状況把握、チェックを行い、状態変化のある人は随時に、また変化のない人も3ヶ月毎に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者でリハビリやマッサージの希望者に対しては、協力医療機関と連携し職員が支援しているし、事業所を自治会の会議の場所に提供したり、学童保育も地域の要望も入れ、事業所内で行っており、事業所の多機能性をフルに発揮している。	○	事業所を自治会の会議の場所に提供しており、回覧物を取りにくる役員さんが出入りしているし、学童保育の親御さんも出入りしている。これで十分としないで、地域のいろいろな人々の出入りする「地域交流の場」に向けて取り組まれることを、更に希望する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が事業所の協力医(主治医)とし、週一回の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の必要な人は病院への入院になるが、老衰(ターミナル)に対してはすでに2名の実績もあり、事業所での終末対応を入居時に説明している。職員全員が終末期に向けた対応方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会や職員間で話し合い、個人記録では名前を書かずイニシャルにしたり、言葉掛けや意識の向上を図っている。当日の支援状態の中でも「言葉使い」に配慮している様子がうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿うように支援努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から購入しているが、食事準備・後片付けを利用者と一緒に行っているし、職員も同じものを一緒に食している。献立メニューは併設の連携医療機関の管理栄養士が作るが、利用者の希望で随時変更されるし、弁当持参の子どもたちも一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週一回の往診翌日は薬の仕分けの日でお休みだが、他は毎日入浴できる。毎日の人もあれば一日おきの人もおり、本人の希望最優先で支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味が把握されており、その人の残存能力に合わせて役割分担されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って近所の公園までの散歩やパン屋、コンビニ、スーパー等に出かけている。また外に出られない人に対しては、玄関先にベンチがあり、そこでお日さんに当たりながら戸外の空気が吸えるよう支援している。		
26	66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	3ユニット3階建ての建物であり、センサーのついている玄関もあるが、鍵は掛かっておらず学童保育の子どもたちも自由に入出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回利用者と一緒に避難・消火訓練を実施しているし、また、夜間を想定して本年10月、19時に避難訓練をおこなった。また緊急時の一斉メール体制も作っている。	○	今までの訓練は利用者や職員という法人内の人たちだけで行っているが、実際の災害時には地域の協力が必要であり、訓練のときから地域と共同でされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては定期的に法人内の管理栄養士のアドバイスをもらっているし、水分確保も個人別にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の飾りつけは、各種行事の写真や趣味の作品が飾られており、また季節に合わせた飾りなど利用者との共同作品が壁に飾られている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は使い慣れた家具や日用品が持ち込まれており、それぞれの生活スタイル作りがなされている。またカーテンは防火用の布が使用されているし、風を引いたときには加湿器を室内におく等、居心地よくゆったりと過ごせるよう工夫されている。		